

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 29.9.5 第 193 回国会第 18 号（閉会中審査）

9月5日（火）、第18回の委員会が開かれました。

## 1 理事の補欠選任

- ・理事の補欠選任を行いました。  
補欠選任 理事 遠山清彦君（公明）

## 2 国際情勢に関する件

- ・河野外務大臣、佐藤外務副大臣、山本防衛副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。
- ・新藤義孝君外3名（自民、民進、公明、自由）から提出された「北朝鮮による六度目の核実験に対する抗議決議案」について、提出者寺田学君（民進）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを委員会の決議とすることに決めました。  
（賛成—自民、民進、公明、共産、維新、自由）
- ・河野外務大臣から発言がありました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 中山泰秀君（自民）

- ・今後、北朝鮮が現実的に核保有国となった場合、我が国政府はどのように対処していくのか。
- ・北朝鮮制裁に当たり重要な役割を占める中国が制裁強化に慎重な姿勢であるが、我が国政府は中国に対してどのように働き掛けていくのか。
- ・国民保護の観点から、シェルターの導入等について政府として現時点でどのように考えているのか。

### 遠山清彦君（公明）

- ・北朝鮮の核・ミサイル問題の外交的解決のため、実効性を担保しながら圧力を強化することが必要だが、一方で出口戦略を念頭においた対話、交渉をすべきではないか。

### 原口一博君（民進）

- ・政府は、北朝鮮に対する原油の禁輸を国連決議に盛り込むよう働き掛けを行っているのか。
- ・電磁パルス（EMP）攻撃から原子力施設を守るための政府の検討内容について伺いたい。
- ・米国が北朝鮮に対して軍事オプションを行使する場合、韓国には事前同意を得ることを約束しているが、我が国にはどうか。

### 渡辺周君（民進）

- ・次に北朝鮮がミサイルを発射した際には、我が国の領土、

領海への落下の可能性の有無も含めた詳細な情報を、Jアラートを通じて国民に素早く周知すべきではないか。

- ・北朝鮮の労働者が多数働いているとされる中東諸国、ロシア等に対して、就労ビザを発給しないよう働き掛けを行うべきではないか。
- ・北朝鮮のミサイルが我が国上空を通過した場合、重要影響事態に該当するのではないか。

### 小熊慎司君（民進）

- ・北朝鮮に対して、対話と圧力を続けていっても、北朝鮮が合意事項を履行するという担保がなければ意味がないのではないか。
- ・北朝鮮問題に関して、米国、韓国に加えて中国、ロシアとの更なる連携強化を図っていく必要があるのではないか。
- ・北朝鮮と国交のある国への働き掛けをすべきではないか。

### 笠井亮君（共産）

- ・米朝間での軍事的緊張がエスカレートし偶発的な事態等により軍事的衝突が引き起こされる可能性について河野外務大臣の所見を伺いたい。
- ・現状の危機打開のためには米朝の自制と直接対話が行われることが必要と考えるが、我が国として両者に働き掛けるべきではないか。
- ・米国の拡大抑止に頼るのではなく国連安保理決議に基づいて平和的解決を目指すことが重要であると考えているが、河野外務大臣の見解を伺いたい。

## 足立 康史君（維新）

- ・PAC-3の空白域は存在するのか。
- ・北朝鮮のミサイルが米国本土へ到達する可能性が生じたことで、米国による我が国のデカップリングが起こるおそれがあるのではないか。

## 玉城 デニー君（自由）

- ・北朝鮮による6度目の核実験に対する河野外務大臣の見解を伺いたい。
- ・北朝鮮の非核化への合意に向けて韓国、中国及びロシア等との関係を強化するための働き掛けの状況について伺いたい。
- ・韓国で今月6日から開催されるソウル安保対話（SDD）において我が国がどのような提言を行うのか伺いたい。